

62年 辰司社長が3代目社長に就任  
84年 孝典さんが入店



昭和50年代の改装前の店構え

がかな材料で  
得たずにか  
次第に復興  
可通りの商  
返し、店に  
かよみがえ

は一九五一年に入店。妻の能婦子さん(73)とともに高度経済成長に歩調を合わせるように仕事にまい進した。その後、総菜「絹衣」が皇室買い上げ品になった。店頭販売だけでなく、一時は高崎、渋川、桐生、足利などの商業施設にも卸売りをした。

現在は四代目となる長男の孝典さん(49)が味を守る。京都の老舗和菓子メーカーでの修業経験から、素材の見直しや風味の生かし方などの研究にも余念がない。次男の敏博さん(48)も経営に加わる。

チェーンソーバーからテナント出店の引き合いもあるが、代々続く店舗販売にこだわる。辰司社長は「商店街からスーパーへ、さらに大型商業施設へと小売業の変化は目まぐるしい。のれんにあぐらをかかず、地域に愛され続ける努力を続けたい」と話している。

(報道部 石倉雅人)



特製ハンバーグ  
「アーティスト モック

ハンバーグティッシュとパスタ「アラビアーティスト モックアレフ和え」を発売した。地域の名店とのタイアップ企画の一環で、女性客を中心に支持を集める同店の人気メニューを再現した。

「ハンバーグアーティスト」

沢田製作所

## お年寄りや女性でも一 刺股を軽量化

藤岡市に寄贈

お年寄りや女性でも一

金属焼き付け塗装などを手掛ける沢田製作所(藤岡市立石、沢田正文社長)は、自社開発した、犯罪者や不審者を捕まえる刺股「すっぽん大将」を藤岡市に五本寄贈した。沢田社長は「お年寄りや女性でも扱えるよう、軽量化したのが特徴。犯罪防止に役立ててほしい」と話している。

同社はイノシシ専用の捕獲わなを製作するなど専門分野にとらわれずに幅広く商品開発に取り組んでいる。刺股は「犯罪被害者を



刺股「すっぽん大将」を手にする沢田社長

少しでも防犯」と数年前から開発に着手。①けがをさせずに捕まえられる強度がある②軽量化などを念頭に、地域総合整備財団の小規模商品開発補助金を受けて検討を進め、昨年新製品を完成させた。

「すっぽん大将」は長さ一・三〇センチ、六七センチの二種類。アルミ製で重さはそれぞれ一・一キロ、一・二五キロと軽量化した。

アームが腕や脚などを挟むと、閉まって自力で取り外しができない仕組みで、「スッポ」に食い付かれた状態を連想させる」ことが商品名の由来となっている。価格は短いサイズが三万四千八百円、長いサイズが三万五千八百円。

寄贈された新井利明市長は「使い方が非常に簡単、安全のために活用したい」とし、市内の中学校五校に配置する方針だ。

問い合わせは、同社(0274・42・4317)へ。

とする辛さをアクセントにした。税込み四百三十円。

【おとわり】9月から「ランチ探検隊」は月曜掲載。「気になるビジネス書」は日曜

人生でいちばん大きな買い物をするあなたが、いちばん安心でき

る銀行でありたい。だから、私たち群馬銀行は、住宅ローンの